

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局	
	17088	放課後子ども教室推進事業	課名	生涯学習課 社会教育G	
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	02:安心して産み育てられる環境づくりの推進		款	10:教育費
	施策の方向	04:仕事と子育てが両立できる環境づくり		項	05:社会教育費
	戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト		目	01:社会教育総務費
事業予定期間	H 19 ~ R - 年度		主な根拠法令要綱等		

目的・概要	対象	小学生と保護者
	目的	地域での子どもの体験学習や地域の大人との交流活動などを通じて、地域の中で子どもが安心して過ごすことができる環境づくり(居場所=拠り所)のため、「放課後子ども教室」を継続的に実施していく。また、地域の子どもは地域で育てていくという意識づけを進めていくためにも、まちづくり協議会等への働きかけを行っていく。
概要	全小学校区において、「放課後子ども教室」の持続的な運営を行うとともに、「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」との十分な連携を図っていく。また、「放課後子ども教室」以外の地域行事やコミュニティセンターでの活動等の機会を通じて、地域の子どもに役割を与え、その中で新たに地域交流などが行える場を創出していく。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	「放課後子ども教室」の運営 ・放課後子ども教室(全小学校区) ・長期休暇等の学力向上支援 放課後児童クラブとの連携	「放課後子ども教室」の運営 ・放課後子ども教室(全小学校区) ・長期休暇等の学力向上支援 放課後児童クラブとの連携	「放課後子ども教室」の運営 ・放課後子ども教室(全小学校区) ・長期休暇等の学力向上支援 放課後児童クラブとの連携	
	年度実績	全小学校区での実施 開催回数 1,656回 参加人数 23,316人			
事業の計画・実績	計画額	事業費	17,000千円	17,000千円	17,000千円
		国庫支出金			
		県支出金	11,300千円	11,300千円	11,300千円
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	14,992千円		
		国庫支出金			
		県支出金	9,998千円		
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	14,531千円		
		国庫支出金			
		県支出金	9,268千円		
		地方債			
		その他			
人件費	一般財源	5,263千円	0千円	0千円	
	総人件費	4,709千円	0千円	0千円	
	一般職員	4,709千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.60			
会計年度任用職員等		0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		19,240千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	放課後子ども教室参画者数	計画値	8,000	8,000	8,000
		年間放課後子ども教室にボランティア等で参画した地域の 方々の延べ人数	実績値	8,885		
			単位	人	人	人
	名称	放課後子ども教室学習支援教室数	計画値	7	8	9
		長期休暇等に学力の向上支援教室等を実施した学校区数	実績値	6		
			単位	校区	校区	校区
	名称	放課後子ども教室参加児童数	計画値	23,000	23,000	23,000
		年間放課後子ども教室に参加した児童の延べ人数	実績値	23,316		
			単位	人	人	人

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 地域で子どもが育まれる居場所づくりのために、地域一体となった取り組みを進める必要がある。そのためには、「まちづくり協議会」や「コミュニティスクール」、「PTA」などの意識共有と連携を進めるとともに、放課後子ども教室の体験活動についてコーディネータ間の情報共有を図るとともに、放課後児童クラブの連携についての具体的方策を検討していく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 伊賀市・甲賀市との、いこが連携の一環で、市民活動団体(青少年育成・居場所づくり)交流会を実施し、他市での青少年育成の事例を学ぶ機会を創出した。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 地域で子どもの体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所をつくるため、「全小学校区で実施すること」や「持続的展開のための委託業務化」を進め、令和元年度から全小学校区で委託業務化することができた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 全小学校区で放課後子ども教室を実施したことにより、地域の中で子どもが安心して過ごすことができる環境を提供することができた。また、新型コロナウイルスの影響により、3月中は放課後子ども教室を休止していたが、目標値を上回る児童が、教室に参加することができた。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 地域の中で子どもが安心して過ごすことができる環境づくりを充実させるためには、放課後児童クラブとの連携はもとより、PTAや子ども会などの地域団体とも協力していく必要があり、その具体的な方策を情報共有する必要がある。また、年度末に発生した新型コロナウイルスなどの緊急事態において、放課後子ども教室がどのような役割を担っていくのか、検討する必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 放課後子どもプラン運営委員会において、「子ども会」「PTA」「放課後児童クラブ」などの情報共有を図り、地域で子どもが育まれる居場所づくりの充実を図る。緊急事態時の放課後子ども教室の活動について、コーディネータとの協議の場を持ち、情報共有に努める。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 新型コロナウイルスなどの緊急事態下において、地域内の連携強化を図ることができ、地域の中で、子どもが大切にされているという意識が醸成され、地域が子どもの居場所になっていく。	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育グループリーダー 小坂 博文
【最終評価者】	教育委員会事務局 生涯学習課長 桜井 伸仁

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	B	B	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		14,992 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	14,992 千円
	令和2年度への繰越額	千円